

令和7年度 奈良県教育長賞

未来をつくる税

奈良県立十津川高等学校 1年 鈴川 栄

私たちの社会は、多くの人々の協力によって成り立っています。その中でも重要な仕組みの一つが「税」です。税は国や自治体が集め、教育、医療、福祉、道路や公共施設など、私たちの生活を支えるさまざまな分野に使われています。普段はあまり意識することがないが、実際には身近なところで大きな役割を果たしていると思います。

私はこれまで、税に対して「大人になつたら払うもの」という漠然としたイメージしか持っていました。しかし、学校の授業やニュースを通じて、税は社会を支えるために欠かせない仕組みであることを学びました。例えば、無償で配られる教科書や、地域で整備された公園や図書館は税金で支えられています。病気や災害など、もしものときに安心して生活できるのも税のおかげだと考えると、その重要性を改めて実感しました。

一方で、税の使い方には課題もあると感じます。少子高齢化が進む中で医療や年金の支出が増える一方、働く世代は減っています。将来、私たち若い世代の負担が大きくなることが予想されています。さらに、ニュースでは政治や行政における無駄遣いや不透明な支出が取り上げられることもあります。せっかくの税金が有効に使われていないのではないか、と不安や疑問を抱くのは当然だと思います。

だからこそ、税は「納めて終わり」ではなく、「どう使われているのか」に目を向けることが重要だと考えました。私たちが選挙で投票し、意見を示すことは、税金の使われ方をより良いものにしていく大切な行動につながります。高校生である私はまだ選挙権を得ていないが、政治や経済に関心を持ち、正しい情報を選び取る力を持つことが必要だと思います。

やがて社会に出れば私自身も税を納める立場になります。そのときに「仕方ない負担」と感じるのではなく、「社会を支えるための大切な参加」だと前向きに考えたいです。そのためには、私たちが税の意義を理解し、納める側も使う側も責任を果たすことが欠かせないと思います。税は私たちの暮らしを守ると同時に、未来の社会を形づくる力でもあります。私はこれからも税について学び、関心を持ち続けたいと思います。